

3

山口県下関市

下関市立豊北中学校

- クラス数／10クラス
- 生徒数／245名
- 建築主／下関市
- 所在地／下関市豊北町大字滝部 1244-36
- 敷地面積／39,851㎡
- 建築面積／8,545.55㎡
- 延床面積／10,372㎡（体育館 1,321㎡）
- 構造・規模／鉄骨造一部鉄筋コンクリート造
地上2階建
- 施工期間／平成16年10月～平成17年12月
- ※クラス・生徒の数値は平成22年3月末現在

学校の中心に地域図書室。学校が地域の交流と学習・運動活動の拠点に。

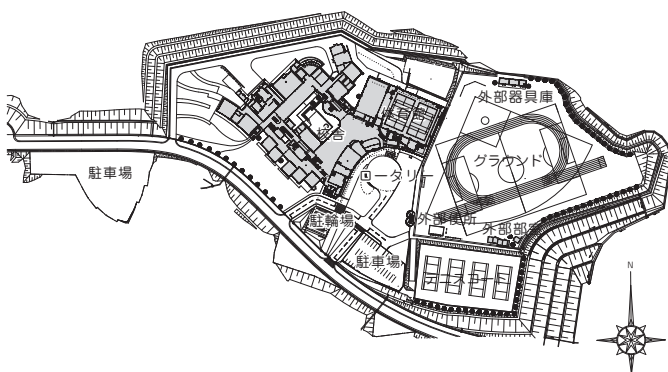
学校図書室と地域図書室を一体にして学校の中心に。学校全体が地域の交流活動の拠点となり、地域の文化・歴史を継承する場となる。教科センター方式の導入で自己学習の意欲を高め、随所に設けたオープンスペースが交流の場に。



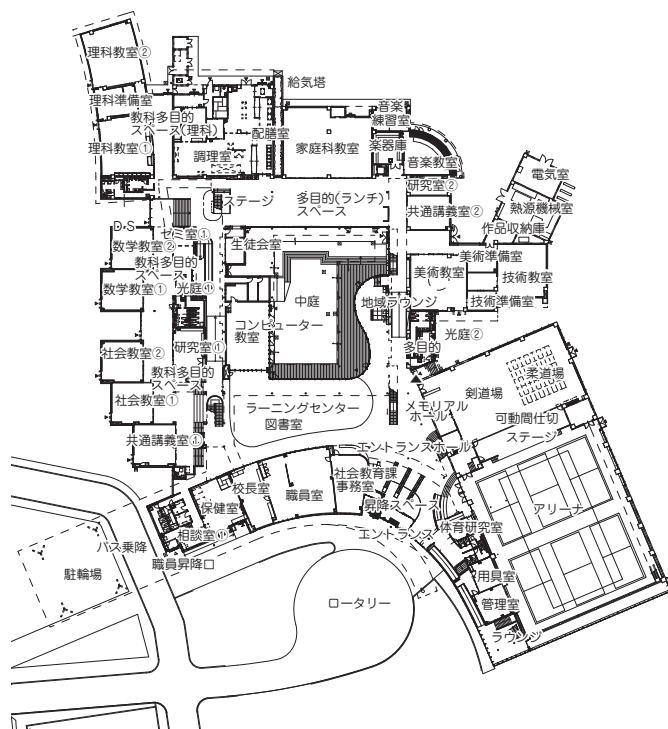
敷地レベルを生かした施設配置

計画に見られる 指針改訂のポイント

1. 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
2. 家庭・地域と連携した施設の充実
3. 環境面からの持続可能性への配慮



■配置図



■1階平面図

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供 ― 生徒・教師の交流を促すための空間が随所に



1 発表やグループ学習など多様な機能をもつ教科多目的スペースの階段状スペース



2 教科教室前の教科多目的スペース(オープンスペース)



3 ホームベース前の廊下



4 ランチルームともなる多目的スペース

校長の視点から

教科センター方式の導入に伴う移動空間の工夫

高度で専門的な授業を展開するために教科センター方式を導入し、その効果を高めるためにラーニングセンター・図書室、校務、教科教室、特別教室、ホームベースの5つのゾーニングにより空間の目的を明確化しています。生徒たちは登校するとまず2階のホームベースへ向かい、ホームルーム後、それぞれの授業プログラムを確認して各教室へ移動します。

教師たちも職員室での朝礼の後、各研究室で授業の準備を行い各教室へ移動していきます。生徒は教科教室に近づく間に集中力を高め、学習意欲を向上させています。開放感のあるホームベースや階段、オープンスペースでは日常的なふれあいのある心地よい居場所をつくりだし、これによって学習意欲の向上を実現しています。

(写真1～4)

教職員の視点から

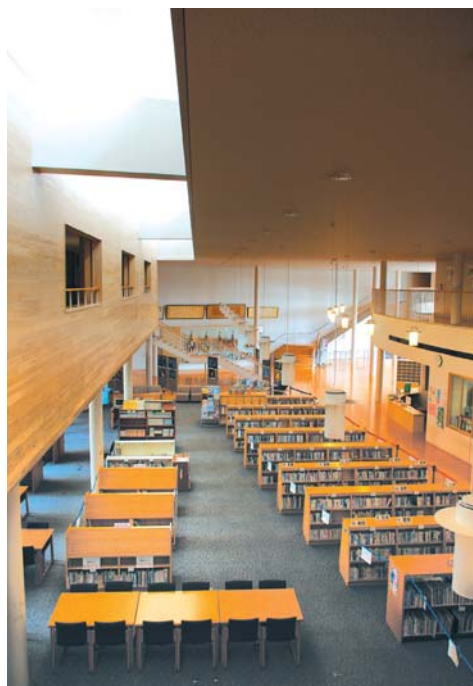
生徒同士、生徒と教師の交流を促す、多様な学習空間

階段状のオープンスペースは、グループ学習や発表の場であると同時に、生徒たちの交流の場でもあります。教科ごとに使えるオープンスペースは、小グループでの作業や調べ学習に適しています。このような変化に富んだ施設によって、多様な学習活動が促されるとともに、生徒同士はもちろん、生徒と私たち教師との交流も活発化しています。(写真1、2)

家庭・地域と連携した施設の充実
「保護者や地域住民の交流の場を計画」



5 地域に開放される音楽室



6 地域交流の場となる図書室



7 図書室に併設されたラウンジ

地域全体で生徒たちを
見守る取り組み

図書室は市が管理しています。学校が地域との接点になるよう図書室にはラウンジが併設されています。体育館・音楽室・美術室・技術室・家庭科室は地域開放ゾーンにまとめられ、音楽のレッスン、バレーボール大会などに開放されています。こうした交流により、地域全体で生徒を見守り育てていくという意識が高まり、心強く感じています。(写真5～7)

ふるさとの教育環境を活かした
外部講師の活用

地域には、私たち教師にはない専門性をもった方たちがたくさんおられます。それを大切な教育資産と捉え、さまざまな人材を外部講師として招いています。開放空間や剣道場、アリーナなど外部講師からの学びの場となる施設は、外部から利用しやすいよう、エントランス近くに配置されています。(写真5～7)

〈設計者の視点から〉

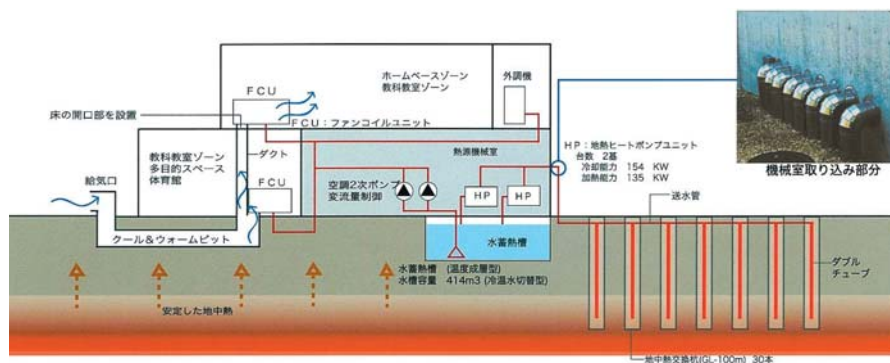
◎「地球環境と共生するエコスクール」を具現化することを目的として、省エネルギー・省資源をめざすとともに、維持管理費の低減も視野に入れ設計しています。中庭と校舎の位置関係は採光や通風を考慮した配置とし、図書室にはハイサイドライトを取入れ、地域との交流の場となる施設の窓は開放感のある大きなガラス面を採用しています。(写真5～9)

環境面からの持続可能性への配慮

「クリーンエネルギー導入による温室効果ガスの発生抑制



8 採光・通風を確保する中庭



10 地熱ヒートポンプシステム



12 太陽光発電システム



9 美術室のトップライト



11 クール&ウォームピット吹き出し口



13 太陽光発電モニター

検討委員会委員の視点から

家庭・地域と連携した施設の充実の観点から

生徒の交流の場にもなる多機能な階段状の空間を整備したり、図書室に併設してラウンジを設けたり、また、エントランスホールに図書室を設けるなど、生徒同士、地域住民等との交流を促進するための環境が充実している。

環境面からの持続可能性への配慮の観点から

採光・通風を確保するために中庭を設け、ハイサイドライトやクール&ウォームピット、太陽光発電システムの導入など、環境負荷の低減や自然との共生等を考慮した施設づくりとなっている。

◎豊北町有林の杉やヒノキを積極的に利用して、建築資材の輸送に伴うエネルギーと温室効果ガス排出量の削減にも配慮しました。
(写真 6、7、9)

◎設備面では、太陽光発電システム、クール&ウォームピットなどを採用し、その他にも氷蓄熱空調や節水、省電力照明機材などを導入して省エネルギー環境を整えています。
(写真 10～13)

(設計/日本設計)